

平成24年度採択プログラム 中間評価調査  
 博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要

(中間評価後修正変更版)

[公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	長崎大学	整理番号	O05
1. 全体責任者  (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) かたみね しげる 氏名・職名 片峰 茂 (長崎大学学長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) やました しゅんいち 氏名・職名 山下 俊一 (長崎大学理事(国際・附置研究所担当))		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) もりた こういち 氏名・職名 森田 公一 (長崎大学熱帯医学研究所 所長)		
4. 類型	○ <オンリーワン型>		
5.	プログラム名称	熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム	
	英語名称	Program for Nurturing Global Leaders in Tropical and Emerging Communicable Diseases	
	副題	世界の安全、安心に寄与する感染症制御専門家、リーダーの養成を目指して	
6. 授与する博士学位分野・名称	博士(医学):熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム修了		
7. 主要分科	(① ) (② ) (③ ) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入 社会医学、内科系臨床医学、基礎医学		
	(① 公衆衛生学・健康科学 ) (② 感染症内科学 ) (③ ウイルス学 ) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
8. 主要細目			
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	大学院医歯薬学総合研究科・新興感染症病態制御学系専攻、熱帯医学研究所		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)			

(機関名:長崎大学 類型:オンリーワン型 プログラム名称:熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム)

14. プログラム担当者の構成 計 27 名						
外国人の人数	2 人	[ 7.4% ]	女性の人数	1 人	[ 3.7% ]	
プログラム実施大学に属する者の割合 [ 100.0 % ]						
プログラム実施大学に属する者			27 人	プログラム実施大学以外に属する者		0 人
そのうち、他大学等を経験したことのある者			27 人	そのうち、大学等以外に属する者		0 人

15. プログラム担当者

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成28年度における役割)
(プログラム責任者) 山下 俊一	ヤマタ シュンイチ		理事(国際・附置研究所担当)	内分泌・代謝学、放射線災害医療学・医学博士	プログラム責任者(プログラム運営の統括)
(プログラムコーディネーター) 森田 公一	モリタ コウイチ		熱帯医学研究所・所長・教授	ウイルス学・医学博士	コーディネーター(プログラム実施の統括)、感染症危機管理学特論、コミュニケーション教育推進、学位論文指導
西田 教行	ニシタ ノリユキ		大学院医歯薬学総合研究科・新興感染症病態制御学系専攻・教授	病原微生物学・博士(医学)	サブコーディネーター(基礎医学領域担当)、学位論文指導
泉川 公一	イズミカワ コウイチ		大学院医歯薬学総合研究科・新興感染症病態制御学系専攻・教授	感染症学、感染制御学、真菌学・博士(医学)	サブコーディネーター(専門教育領域担当)、感染制御学特論、学位論文指導
山本 太郎	ヤマモト タロウ		熱帯医学研究所・教授	国際保健学、フィールド医学・博士(医学・国際保健学)	サブコーディネーター(海外実践教育担当)、国際保健学、コミュニケーションスキル、学位論文指導
稲田 俊明	イナダ トシヤキ		言語教育研究センター・センター長・教授	言語学、応用言語学・文学修士	サブコーディネーター(コミュニケーション教育の統括)
須齋 正幸	スサイ マサユキ		経済学部総合経済学科・教授	国際金融論・商学修士	リスク管理学特論、国際経済学特論、国際法特論
門司 和彦	カドモリ カズヒコ		熱帯医学・グローバルヘルス研究科・教授(H27.4.1所属局変更)	人類生態学、熱帯公衆衛生学・保健学博士	文化人類学特論
Laothavorn Juntra	ラオハヴォーン チョントラ		熱帯医学研究所・教授	臨床開発学・理学博士	倫理学特論、コミュニケーションスキル、学位論文指導
金子 修	カネコ シユ		熱帯医学研究所・教授	寄生虫学、原虫病学・博士(医学)	寄生虫学特論、学位論文指導
濱野 真二郎	ハマノ シンジロウ		熱帯医学研究所・教授	寄生虫学、免疫学・博士(医学)	免疫・遺伝学特論、学位論文指導
平山 謙二	ヒラヤマ ケンジ		熱帯医学研究所・教授	免疫遺伝学・医学博士	倫理学特論、学位論文指導
皆川 昇	ミナカワ ノボル		熱帯医学研究所・教授	環境医学・PhD	病害昆虫学特論、コミュニケーションスキル、学位論文指導
有吉 紅也	アリヨシ コウヤ		熱帯医学研究所・教授	感染症内科学・博士(医学)	熱帯感染症制御学特論、コミュニケーションスキル
橋爪 真弘	ハシヅメ マサヒロ		熱帯医学研究所・教授	疫学、公衆衛生学・博士(医学)	フィールド疫学特論、コミュニケーションスキル、学位論文指導
一瀬 休生	イチノセ ユセイ		熱帯医学研究所・教授	細菌学・医学博士	フィールド研究支援(アフリカ拠点)、コミュニケーションスキル、学位論文指導
安田 二郎	ヤスタク ジロウ		熱帯医学研究所・教授	ウイルス学・博士(理学)	ウイルス学特論、学位論文指導
Culleton Richard Leighton	カルトン リチャード レイトン		熱帯医学研究所・准教授	寄生虫学・PhD	コミュニケーションスキル
中込 治	ナカゴミ オサム		大学院医歯薬学総合研究科・新興感染症病態制御学系専攻・教授	衛生学・分子疫学・医学博士	疫学統計特論、コミュニケーションスキル、学位論文指導
森内 浩幸	モリウチ ヒロユキ		大学院医歯薬学総合研究科・医療科学専攻・教授	小児科学、ウイルス学、感染症学・医学博士	熱帯感染症制御学特論
由井 克之	ユイ カツユキ		大学院医歯薬学総合研究科・新興感染症病態制御学系専攻・教授	免疫学・医学博士	学位論文指導
中山 浩次	ナカヤマ コウジ		大学院医歯薬学総合研究科・新興感染症病態制御学系専攻・教授	病原微生物学・歯学博士	学位論文指導
小林 信之	コバヤシ ノブユキ		大学院医歯薬学総合研究科・新興感染症病態制御学系専攻・教授	ウイルス学・薬学博士	学位論文指導
神谷 保彦	カミヤ ヤスヒコ		国際連携研究戦略本部・教授	国際保健学・博士(医学)	国際保健学特論、コミュニケーションスキル
長谷部 太	ハセベ トシ		国際連携研究戦略本部・教授	ウイルス学・博士(医学)	フィールド研究支援(ベトナム)、コミュニケーションスキル
柳原 克紀	ヤナギハラ カツノリ		大学院医歯薬学総合研究科・医療科学専攻・教授	臨床微生物学、感染症学・博士(医学)	細菌学特論
濱田 剛	ハマタ ツヨシ		先端計算研究センター・准教授	情報工学(高性能計算)・博士(学術)	学位論文指導(情報工学・バイオインフォマティクス)

(機関名:長崎大学 類型:オンリーワン型 プログラム名称:熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム)

## リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

## 【プログラムの必要性和概要】

熱帯地域を中心とした開発途上国には世界人口の8割を超える人々が生活しており、今なおマラリア、デング熱、トリパノゾーマ症などの熱帯特有の感染症により多数の患者が発生している。一方、あらゆる分野で進展するグローバル化の潮流は地球規模でのボーダーレスなヒト、モノの移動とアジア・アフリカ地域における自然開発、人口増加、都市化をもたらし、熱帯病・新興感染症のアウトブレイクと伝播を容易にしている。その結果、健康被害や経済損失が広範囲に発生し、熱帯病・新興感染症は開発途上国のみならず先進諸国においても安全・安心な生活を脅かす重大な要因となっている。西ナイル熱のアメリカ大陸への侵入(1999)、重症呼吸器症候群(SARS)の出現と流行(2002)、鳥インフルエンザH5N1のヒト感染の拡大(2003)、新型インフルエンザH1N1(2009)のパンデミック等の事例は記憶に新しいところである。このような熱帯病・新興感染症対策には、利用可能なリソース(機材、人材、資金等)を動員し正確な科学的根拠に基づき効果的な対応を主導できる優れたリーダーシップを備えた国際的人材の充実に急務である。

本学位プログラムにおいては、取り組むべき課題として「熱帯病・新興感染症の制御」を掲げた。この課題に取り組むため、本学大学院医歯薬学総合研究科に「熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム」を設置して、グローバルな視点で国際リーダーとして活躍できる人材を育成するための大学院教育を行う。具体的には学位論文作成を通して実施する分野別の専門教育に加え、本学が有するケニアとベトナムの研究施設とフィールド、WHO等の国際機関、海外の協力研究施設、NGO等において実地研修を含む分野横断的なカリキュラムによる実践的教育を行う。これにより熱帯病・新興感染症を分子レベルから疾病制御のオペレーショナルなレベルまで、開発途上国から先進国まで包括的にその状況を俯瞰し、国際的に通用するコミュニケーション能力を身に付け、感染症危機対応にも知識を持つ人材を育成する。こうした人材には国際レベルの熱帯病・新興感染症制御および感染症危機に対応できる専門家としての活躍が期待され、日本および世界の「平和で安全・安心な生活を保障する人間社会の構築」への貢献につながる。

## 【特色】

4年間(早期修了の場合は3年間)の大学院博士課程の教育により、グローバルな環境で活動できる専門性と国際性を身に付けた熱帯病・新興感染症制御に資する専門家を育成するため下記の取組を実施する。

- ・充実した教授陣の英語による横断的カリキュラム
- ・教育期間全体を通じたコミュニケーションスキルの一貫教育
- ・海外拠点や国際機関等での感染症対策 On-the-job トレーニング、インターンシップ
- ・協力機関(南アフリカ NICD、2010年学術協定締結済等)でのBSL4病原体取扱いトレーニング
- ・倫理教育の導入: 開発途上国における感染症対策専門家に要求される高い倫理性の涵養
- ・学生の選抜: 本学の医学部および修士課程から一貫して熱帯病を学ぶ学生の受入れ
- ・学生への経済的支援: 奨励金制度、海外研修経費の支給制度による経済負担の軽減措置
- ・学生への精神的支援: メンター制度の充実(国際機関勤務経験者による進路相談等)

## 【優位性】

長崎大学は熱帯医学研究所および医歯薬学総合研究科・新興感染症病態制御学系専攻を中心として熱帯・新興感染症の教育・研究に関わる教授陣を増強し、関連する海外学術機関や国際機関との連携を強化してきた。特に2003年からの21世紀COEプログラム「熱帯病・新興感染症の地球規模制御戦略拠点」、2008年からのグローバルCOEプログラム「熱帯病・新興感染症の地球規模統合制御戦略」によって研究教育体制は飛躍的に向上し、研究成果も増加している。2005年、熱帯医学研究所はWHOから「熱帯・新興ウイルス感染症に関する」WHO研究協力センターに指定され、世界的な認知度も高まっている。また、同年からケニア共和国ナイロビ市とベトナム社会主義共和国ハノイ市に大学教員が常駐する研究施設を開設し、アフリカ・アジアでの教育、研究インフラを整備している。加えて、2008年より独立研究科の国際健康開発研究科(修士課程、定員10名)を立ち上げ、8か月の長期海外研修を実施しており、そのノウハウを有する。さらに、2010年には文部科学省最先端研究基盤事業により感染症創薬機器と病原体可視化研究のインフラを整備充実しており、熱帯病・新興感染症について国際的レベルでリーディング大学院プログラムを実施できる優位性を有している。



学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

